

**大学院GP(同志社大学)の挑戦
—GPの成果と残された課題—**

2009年12月12日
同志社大学
埋橋孝文

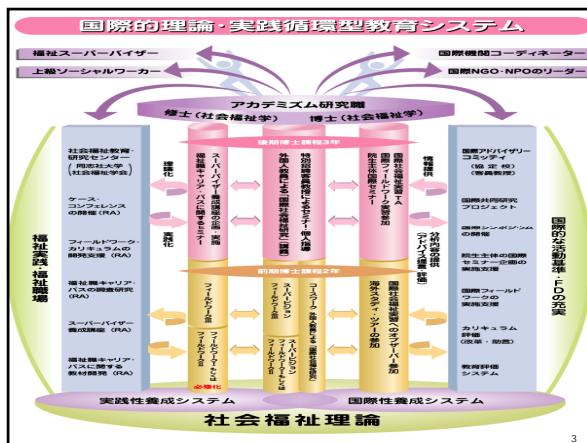
メインテーマと3つの柱

文科省「組織的な大学院教育改革推進プログラム
(通称・大学院GP)」

国際的「理論・実践循環型」教育システム(同志社大学大学院社会福祉学専攻)

1. 国際アドバイザー・コミッティの設立と国際交流事業
2. センターの設立と教育・研究プロジェクトの推進.
3. 大学院教育カリキュラムの改革

2



国際アドバイザー・コミッティ



D. リー G. エデバルク J. ブラッドショー 宋鄭府
 ロヨラ大学 ルンド大学 ヨーク大学 尚志大学
 (アメリカ) (スウェーデン) (イギリス) (韓国)

4

国際アドバイザー・コミッティ(D-IAC)の開催

- 第1回 2008年3月11日, 出席 Daniel Lee教授, P.Gunnar Edebalk教授, Jonathan Bradshaw教授, 宋鄭府教授, ★ 2008年4月 *International Advisory Committee (IAC) Consultation Report* 受領
- 第2回 2008年12月12日, 出席 Daniel Lee教授, P.Gunnar Edebalk教授, ★ 2009年2月 *International Advisory Committee (IAC) Consultation Report No.2* 受領

5

D-IACでの論点

1. 必修教科の導入をめぐって(⇒選択必修制)
2. 修士課程院生の主査決定時期について(⇒半年早める)
3. 必要単位数について(⇒36単位から30単位へ)
4. マクロの制度・政策論のための実習先開拓について

6

教育カリキュラムの改革

1. 指導教授決定時期をM1終了時から半年早めた
 2. 修士「論文指導」の時間を新設
 3. 修士論文発表会を2回(M2の春, 秋)に増やした
 4. 博士後期課程院生の「博士論文構想発表会」(仮称)を新たに設けた
- ※ただし, これらは「先進的・革新的」というより, 他の大学院並みになったというべき改革に留まっている. 今後は「5年一貫制大学院」の実現も視野に?

7

センター主催 国際講演会(1~3)

- 1) 同志社社会福祉国際講演会(2007年11月9日)40名参加
 テーマ:「中国の社会と社会政策」
 林 卡(南京大学「現代中国における社会の質」, 周 曉虹(南京大学)「中国の中間層」)
- 2) 同志社社会福祉国際講演会(2008年1月25日)30名参加
 テーマ:「台湾における福祉政策の最近の動向」
 詹 火生(国立台湾大学・前台湾社会政策学会会長・元労働大臣)
- 3) 社会福祉／社会政策国際カンファレンス(2008年3月12日)100名参加
 テーマ:「社会福祉・社会政策研究のフロンティア」
 D. リー(ロヨラ大学), J. ブラッドショー(ヨーク大学), P. G. エデバルグ(レンド大学), 宋鄭府(同志社大学)

8

センター主催 国際講演会(9~11)

- 9) 第2回院生主体国際セミナー(2009年7月11日)40名参加
 テーマ:「日・中・韓の社会福祉サービスとヒューマンパワー」
- 10) 国際講演会(主催・ライフリスク研究センター, 2009年7月18日)35名参加
 テーマ: "Social Assistance and the Measurement of Minimum Cost of Living in the UK" 講師: ジョナサン・ブラッドショー(ヨーク大学教授)
- 11) 社会福祉国際講演会(2009年9月26日)30名参加
 テーマ:「中国の社会福祉と人材育成」
 講師: 章曉懿(上海交通大学副教授), 徐永祥(華東理工大学教授)

9

センター主催 講演会・ワークショップ(1~2)

1) 社会福祉教育・研究支援センター開設記念講演会(2007年12月8日)200余名参加

講演1 岩田正美(日本女子大学教授)「社会福祉研究の意味」

講演2 武川正吾(東京大学教授)「これからの社会政策研究」

2) 講演会&シンポジウム(2007年12月8日, 主催・同志社大学社会福祉学会)200余名参加

講演: 橋本俊詔(同志社大学経済学部教授)「格差社会の現実とその課題」

シンポジウム「貧困問題再考-格差社会にどう取り組むのか」

10

センター主催 講演会・ワークショップ(8~10)

8) 第1回院生運営小規模研究会(2009年5月28日)講師: 三島亜紀子(東大阪大学) 30名参加

9) 第2回院生運営小規模研究会(2009年10月16日)講師: 山森亮(同志社大学) 10名参加

10) 第3回院生運営小規模研究会(2009年12月11日)講師: 古井克憲(和歌山大学) 〇名参加

11

社会調査法ワークショップ

質的調査(2009年8月24日, 25日, 27日) 講師: 笠原千絵(関西国際大学) 20名参加

量的調査(2009年9月7日, 8日) 講師: 山口麻衣(ルーテル学院大学) 10名参加

12

国際・国内講演会・ワークショップ開催の成果

国際延べ575名参加, 国内延べ805名参加

1. 最新動向にふれる(例・ジョナサン・ブラッドショー教授の講演会, Minimum Income Standard, MIS)
2. 確かな方法論を修得
3. 院生自らが企画・運営⇒研究コーディネーター, 研究マネジメント能力を修得

13

センター主催 講演会・ワークショップ(11~13)

- 11)「英語によるプレゼンテーションに向けた講習会 No.1(講義編)」(2009年12月16日)講師: Dr.Tuukka Toivonen (京都大学GCOE研究員)
- 12)第4回院生運営小規模研究会(2009年12月18日)講師:小林勇人(立命館大院生)
- 13)「英語によるプレゼンテーションに向けた講習会 No.2(ワークショップ編)」(2010年1月26日)講師:Dr.Tuukka Toivonen (京都大学GCOE研究員)

14

7つのセンター教育・研究プロジェクト

- 1)「自殺予防」プロジェクト(リーダー:木原活信)
- 2)「地域貢献」プロジェクト(リーダー:上野谷加代子)
- 3)「地域包括支援センターの機能に関する研究」プロジェクト(リーダー:山田裕子)
- 4)「福祉専門職のキャリア形成」プロジェクト(リーダー:小山隆)
- 5)「実習教育研究」プロジェクト(リーダー:空閑浩人)
- 6)「事例研究・研修」プロジェクト(リーダー:野村裕美)
- 7)「福祉サービスとヒューマンパワーに関する国際比較」プロジェクト(リーダー:堀橋孝文)

15

7つの研究プロジェクトの成果

『新しい福祉サービスと人材育成』(仮題, 法律文化社, 280頁, 予価2800円, 2010年3月刊行予定)

- 第I部 新しい福祉サービスの展開(計3章)
- 第II部 明日の福祉を担うヒューマンパワーの育成(計4章)
- 第III部 福祉のサービスとヒューマンパワーに関する東アジア国際比較(計4章)

16

韓国の2つの大学での英語による研究発表(尚志大学3月5日, 中央大学3月6日)

1. Comparative study of social expenditure in Japan and Korea (by 廣野)
2. Community based service and program development through citizen participation (by 上野谷&室田)
3. A study on NPO's/NGO's of Japan and Korea in a comparative perspective (by 崔)
4. A Training Model Jointly Using the Case Studies and Case Method (by 野村)
5. Perspective and Possibility of social work in suicide prevention (by 市瀬)
6. Social work practice for suicide prevention: Focusing on varieties of risks (by 山村)

17

センターニュースレターの発行

- No.1 特集・センター2007年度の歩み 2008年6月10日
- No.2 特集・センター開設記念講演会
- No.3 特集・事例研究・研修プロジェクトの活動紹介 10月30日
- No.4 特集・センター3つの活動紹介
- No.5 特集・国際アドバイザー・コミッティ(第2回)と国際講演会を開催して 2009年3月20日
- No.6 特集・同志社大学大学院社会福祉学専攻の大学院生
- No.7 特集・同質集団では味わえない何かがある学びの場を 2009年10月30日
- No.8 特集・外部への情報発信と院生の力量アップをめざして

18

海外フィールドワークの実施

2007年度1名(アメリカ), 2008年度7名(アメリカ, オーストラリア, 中国, 韓国, ネパール), 2009年度予定10名(アメリカ, カナダ, 中国, 韓国)

「院生にとって、とてもサポーターティヴな活動でした。海外フィールドワークの助成を受けて、海外の先駆的な実践をしている現場で実習とフィールドワークを行うことができ、成果を投稿論文として公表することができました。

海外で実習ができるというのは、大学院在学中にしかできない貴重な経験だと思いますので、ぜひ『海外フィールドワーク』も後輩のため継続していただきたいです。」(院生の声から)

19

今後の課題

1. 「側面(後方?)支援」としてのセンターの役割

⇒ 本体(大学院専攻)への最新情報と成果のフィードバック

2. サステナビリティの確保

⇒ 3年のGP助成期間後も「必要最低限」必要な活動を地道に継続!

20

私たちは3つのKを心掛けます

■ K1 キラリと輝く教育カリキュラム

■ K2 金の管理に気をつけて

■ K3 体と心の健康管理

(センター開設記念講演会2007年11月のパワーポイントから)

21

ケース・カンファレンスについて

大橋謙策(基調講演「今後の社会福祉専門職養成のあり方を考える」2008年2月23日)
⇒「事例をもたない教員」という表現を用いて、現在の社会福祉教育の質的側面に対し警鐘を鳴らした。
●「理論と実践の好循環」を形成するために必要不可欠！

22
